

1. 学校名 対象 (学年、人数)

福島県 只見中学校

2. 探求課題・活動実践の概要、ねらい、目標等

(1)活動名 地域とともに学び続ける中学生～山あいから海を守る活動を通して～

(2)目 標 俯瞰的に物事をとらえ、自ら意欲的に探究する心を育てる。

(3)ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 多様性 (多種多様な現象が起きていること) | <input type="checkbox"/> 公平性 (一人ひとりを大切に)               |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性 (関わりあっている)        | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性 (互いに連携・協力すること) |
| <input type="checkbox"/> 有限性 (限りがある)                      | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制 (責任を持って)       |
| <input type="checkbox"/> その他 ( )                          |  |

②育成する資質・能力

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力                 | <input type="checkbox"/> 他者と協力する力               |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力          | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力  | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度   |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 |   |

(4)関連する SDGs

1 3 1 4 1 5 1 7

(5)探求課題・活動実践の概要

3年前より始めた海洋の視点を入れた ESD を行ってきた。学校内だけの活動でなく地域を巻き込むことにより地域包括的に発信活動を行ってきた。具体的には、子どもたちが新聞紙レジ袋や米袋をつくり、地域で利用してもらっている。また、ペットボトルの利用制限を呼び掛けている。プラスチックの利用抑제를上流に住む私たちが留意することで、環境改善を行ってきた。日ごろ目にすることがない海をきれいにすることで、俯瞰的に物事をとらえ地球規模で考え行動することを地域の方と一緒に活動してきた。

3. 流れ (指導計画の概略)

活動の中心は生徒会専門委員会の SDGs 委員会 (1~3 年生 17 名) が行っている。地域との窓口にもなっており、毎週の活動としては利用してもらっている店舗との在庫確認、地球 (海や地域の) 環境改善の啓蒙活動を行っている。教育委員会に協力してもらって地域住民にレジ袋作成教室を行ってきた。ゆくゆくは地域の特徴となるようにしていき、地球環境を常に意識できアンテナを高く保てる人材育成をしたいと考える。

4. 効果・反応・所感

良い面と改善すべき面が表れてきた。1年生は活動自体が新鮮であるため、素直に取り組む生徒が多いが、学年を追うごとに意識が高い生徒とそうでない生徒に分かれてくる。地域の大人も同じ傾向があっても二分化する傾向がある。自分事にできるよう、随時発信していくことが必要だと感じる。

5. 指導方法・体制の工夫 (協力者や資源)

教育委員会が主導で地域の企業と中学校が連携協定を結ぶことができた。これをきっかけに多くの人に中学校の活動を知っていただくようになった。この協定が形骸化しないよう、時折協力を求めたり発信したりする必要がある。